

日程	平成 22 年 2 月 22 日 14 : 45 ~ 15 : 30
訪問先	高山グリーンホテル
担当者	技術担当 村山氏
バイオマス活用取組み概要	高山駅からほど近い温泉を備えたリゾートホテルであり、木質燃料株式会社から供給される木質ペレットを用いて、温泉の供用に利用している。

1. 説明内容

積極的な環境への取り組み

高山グリーンホテルでは、平成 17 年度から省エネ ESCO 事業に取り組んできた。平成 21 年は第二期 ESCO 事業計画を開始し、その一つとして木質ペレットボイラーを導入した。ボイラーの導入にはサイロや貯湯槽、配管などシステム全体で約 1 億円の費用を要したが、国 (NEDO) の設備費補助を受けることが出来た。これらの取り組みにより、重油など化石燃料の使用量を抑え、CO₂ 削減を達成したいと考えている。

木質ペレットボイラーの導入と効果

1 日に 2, 3 トン程度使用する木質ペレットは、木質燃料株式会社から供給されている。施設外部に設置されたサイロに、バルク車から直接ペレットを流し入れる (写真 1)。ペレットボイラーでは、ホテルで使用される飲料用のお湯を供給している (写真 2)。

通常の化石燃料のボイラーと異なる点は、灰の処理をする必要があることである。1 日に 1 回、灰出しのために 2 時間程度運転を止めている。ボイラーは 2 つあるので、午前と午後それぞれ分けて灰出しの作業を行っているが、それほど手間のかかるものではない。二つのボイラーから合わせて 60~70kg の灰が毎日排出されるため、肥料化などにより再利用できないか検討している。

熱効率の面から見るとペレットは重油の 40% 程度のエネルギー密度に留まるが、CO₂ 削減効果やコストメリットがあるため、ペレットの使用は有効であると考えられる。



(写真 1) ペレット受入用のサイロ



(写真 2) ボイラー内の燃焼の様子

ホームページ等を用いた広報活動

一般消費者に向けて、環境に関する取組みをホームページ上で掲載している。また、旅行会社に取組み内容の資料を配布し、PRに努めている。近年では、環境への取組みの先進事例として、視察の件数も増加している。

2. 質疑応答

質問 1: ペレットボイラーを扱う上で何か問題点はあったか。

回答 1: 現在のところペレットの品質には規格がないため、ペレット供給会社のデータに合わせてオペレーションを調整する点がやや難しかった。煙突の掃除や灰の処理等の定期的なメンテナンスが必要となる点もあるが、それは大きな手間ではないという印象である。

質問 2: 顧客の評判や反応は変わったか。

回答 2: 直接的に客数の増加につながったわけではないが、環境への積極的な取組みは今後必須であると認識している。

質問 3: 木質ペレットボイラーの導入によりコスト削減につながったか。

回答 3: 導入の費用とランニングコストを勘案すると、現在のところコストの削減にはなっていない。今後、燃料が再び高騰した場合にはコストメリットが出ると考えている。また、現状で金銭的な損得がゼロであったとしても、取組み自体が地球環境のためになることであり、地域に賦存しているエネルギーを使用することで地域活性化につながると考えられるため、これからも継続していきたい。



(写真 3) 会議室での説明の様子

3. 所感

企業の省エネ、CO₂削減に対する取組みとして、非常に参考になったという意見が多かった。全国的にも珍しい事例であることから、PR効果は高いと思った。実際に、全国から口コミでの見学者が多数訪れているとのことである。

バイオマス資源の供給側、資源をエネルギーへ変換する事業者、エネルギーの利用者といったサプライチェーン全体を見ることができ、地域内のバイオマスが効率的に利活用されていることを実感した。